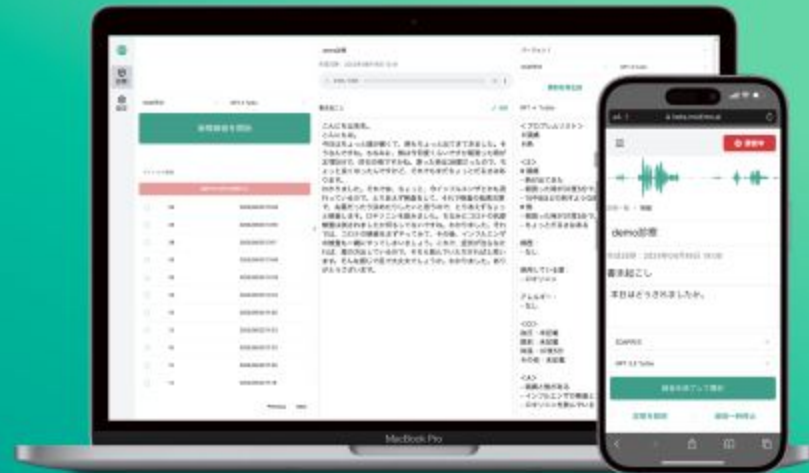




患者さんとの会話から AIが5秒でカルテを作成

医療機関における医療従事者と患者さんの会話の文字起こしと要約をAIにより行い、カルテ作成を楽にするシステムです。



目次

1. 会社のミッション
2. medimoの製品紹介
3. medimoのチーム
4. medimoの1年間のあゆみ

01

会社のミッション

医療現場における過労問題を解決する

私たちmedimolは、**医療現場における過労問題を解決**するために設立された企業です。2023年、26歳の若手医師が過労を苦に自死を選択されました。労働基準監督署の認定では直前1カ月の時間外労働は200時間を超え、連続勤務は100日に達しました。この様に、医療業界は医師をはじめする**医療従事者の自己犠牲的な長時間労働**で成り立っています。この現状をどうにか打開しないと、今まで通りのいつでも・誰でも・どこでも受けられる**医療を維持することが不可能**になります。

26歳医師過労自殺事件 (23/8)

労働署認定の過酷な労働実態

直前1ヶ月の時間外労働

200時間超

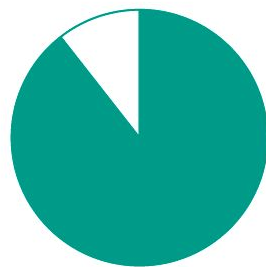
連続勤務

100日

※各社報道資料を基に作成

働き方改革の対応状況 (24/3)

上限の960時間に収められるか



- 不可能。特例を申請
(51病院)
- 可能。
(6病院)

※出展：共同通信調べ（57病院を対象）の数値を基に作成

高齢化に伴い医療現場における人手不足はより深刻化する見込み

医療費の急激な膨張

国民医療費 過去最高を更新



前年度比 4.8% 増

※厚生労働省 発表データ・各社報道より作成

高齢化による医療体制のひっ迫

医療需要のピークへ
2025年問題

- 「団塊の世代」が全員75歳以上へ
後期高齢者の急増による医療需要の拡大
- 在宅医療・救急配送の需要増
病院だけでなく地域全体での対応が必要



受け入れ態勢の構築が喫緊の課題に

※各社報道・専門家見解より要約作成

AIとヒトが協働する未来の医療現場を作る

AIで残業時間を減らす

書類業務を大幅に削減



医療従事者が
目の前の患者に
集中できる環境を作る

AIが診断を補助する

AIが医師の診断補助を行う



自身の専門分野でない疾患や
希少疾患でも見落としを防ぎ
日本中どこでも一定以上の
水準の医療を享受できる

ビッグデータを活用

ビッグデータを用いて
医療にイノベーションを

medimolはシステム予算ではなく、人件費20兆円の市場をみている

医療費
総額 **45**兆円

人件費
総額 **20**兆円

システム予算
0.3兆円

隣接市場を合わせると1000億円以上の市場規模

医科診療所
100,000施設

歯科診療所
70,000施設

薬局
60,000施設

訪問看護
20,000施設

動物病院(ペット)
13,000施設

病院
8,000施設

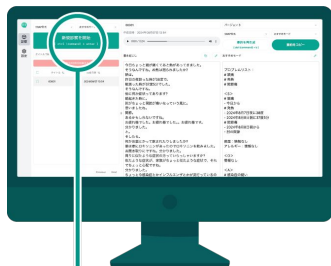
02

medimoの製品紹介

簡単4ステップで患者さんとの会話からカルテを自動生成

患者さんとの会話から各種医療文章を生成

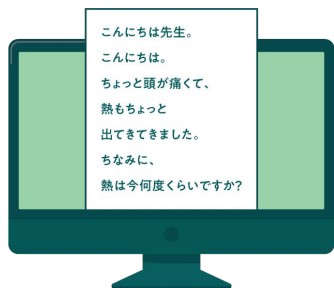
01



新規録音を開始

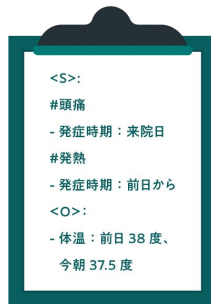
診察前：
録音開始ボタンを押す
診察終了時：
録音停止ボタンを押す

02



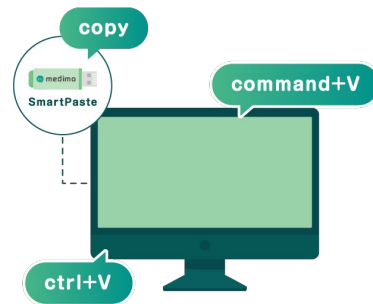
正確な医療用語での
文字起こし

03



AIがSOAP形式に
自動要約

04



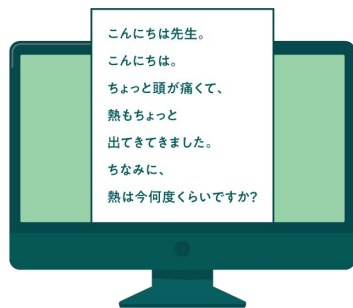
5秒ほどでSOAPが完成
電子カルテへ貼り付け

medimoの4つの特長

01

正確な医療用語の 文字起こし

弊社独自開発のAIに、薬や病気の名前、実際の診療音声を繰り返し学習させることで高精度な文字起こしを実現しました。



02

要約形式の カスタマイズ

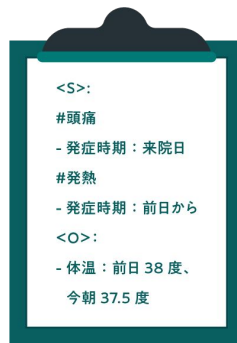
先生ごとの好みに応じたカルテ原稿の作成が可能に。情報記録・共有、診療報酬対応や個別監査指導対策にも役立ちます。※次ページに詳細



03

AIがSOAP形式に 自動要約

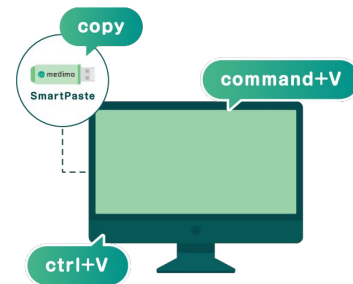
通常の診療であればたった数秒で要約が完成。SOAP形式にも対応したカルテ原稿が自動で作られます。



04

SmartPasteを用いた 貼り付けに対応

専用デバイス(SmartPaste)から、安全かつ簡単なカルテ転送が可能です。もちろんクラウド型・オンプレ型どちらにも対応。



03

medimoのチーム
(メンバー・投資家・アドバイザー)

経営陣のご紹介

～医学部出身の3名が創業～



代表取締役社長/共同創業者

中原 楊

慶應義塾大学医学部卒業。高校在学中に未踏Jr2017年採択。大学在学中はシステム神経科学とAI技術の医療応用について研究。株式会社MICINを経て、medimoを共同創業。現在はmedimoプロダクト責任者。



代表取締役/共同創業者

馬 劭昂

東京大学医学部在学中より株式会社Arayaや松尾研究所でのAI開発に従事したのち、medimoを共同創業し。現在は新規事業責任者を務める。



共同創業者/顧問

野村 怜太郎

聖マリアンナ医科大学医学部在学中より医療機器やヘルスケア機器などの開発を手掛け、2021年慶應義塾大学医学部健康医療ベンチャー大賞準優勝。その後、medimoを共同創業。現在は病院事業責任者を務める。



取締役/事業部長

阿部 瑛

慶應義塾大学経済学部卒業後、(株)メドレーにてオンライン診療・電子カルテのマーケティング責任者を務める。medimo参画後、マーケティング責任者、執行役員を経て取締役に就任。



公益財団法人慈愛会 今村 英仁 理事長

長年にわたり日本の地域医療を牽引し、病院経営・臨床・組織運営の各分野において豊富な経験と深い知見を有する今村氏に顧問をいただいております。

■ 主な現職

公益社団法人日本医師会 常任理事

一般社団法人全国法人立病院協会 監事

公益社団法人鹿児島県老人保健施設協会 会長

公益社団法人全国老人保健施設協会 副会長

公益社団法人鹿児島県医師会 参与

04

medimoの1年間のあゆみ

medimoの1年間のあゆみ

0→1を駆け抜け、1→10の入口に

2023年7月

2024年3月

2024年6月

2024年9月

β版リリース基盤
AI精度改善

正式版リリース
積極的なGTM開始

部分的PMF達成
事業部の立ち上げ

サクセスの
再現性向上・
人員拡張・組織作り

2024年11月にプレシリーズA 1.5億円の資金調達を完了

ANRIリードにてプレシリーズA 1億円の資金調達を完了。

ヤフー元社長の小澤氏とZ Venture Capital元社長の堀氏が率いるBoost Capitalが出資。



参考：米国における類似企業の調達実績

音声よりカルテを作成するStartupが活況を呈す。

ABRIDGE

 **DeepScribe** **Ambience**

	Abridge	DeepScribe	Ambience Healthcare
シェア	1万人の臨床医が利用	400人以上が利用	-
調達	シリーズC 1億5000万ドル調達(2024)	シリーズA 3730万ドル調達(2022)	シリーズB 7000万ドル調達(2024)
売り上げ	760万ドル(2023)	650万ドル(2023)	-
投資家	Lightspeed Venture Partners, Redpoint Ventures, Bessemer Venture Partners	Sequoia Capital, Berkeley Skydeck Fund	OpenAI Startup Fund, Kleiner Perkins, A16Z

2024年11月亀田総合病院での試験導入



音声認識AIツール「medimo」

亀田総合病院における

試験的導入開始。



正式リリース2年で全国1,000件以上の医療施設が導入

都道府県一覧



ご利用中の診療科

- 内科
- 精神科・心療内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 糖尿病内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 整形外科
- 皮膚科
- 婦人科・産科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- リハビリテーション科
- リウマチ内科
- 歯科（口腔顔面痛）
- 動物病院

診察現場の欠かせないパートナーに



田代ひ尿器科
山内智之院長

秘書を手に入れた感覚 外来後の数時間のカルテ作業を大幅削減

1回使ってみると離れられないですよ。僕はたまに開始ボタンを押し忘れて患者さんと喋るときがあるんですけど、終わった後にもうがっかりしちゃうんですね。medimoさんのホームページに「もう手放せない」という声もありましたけどその通りですね。数万円で自分の秘書を手に入れたという感覚があります。

medimoとともに、患者様に寄り添った診療を。

1日100人近くの診察をしていると、丁寧な説明をした後にカルテ入力をするには労力と時間がかかって、入力を後回しにすることがありました。患者さんへの説明内容に齟齬が無く、さらにその診療中にカルテ入力ができる、まさに「あったらいいな」を実現できると興味を持ったのが始まりです。



医療法人社団積善会 伊藤医院
伊藤泰明院長

診察現場の欠かせないパートナーに



ラベンダーメンタルクリニック浜松町
中野和歌子院長

一度使ってみてほしい！カルテ残業が2時間からゼロへ

本当に1回使っていただきたいです。もう本当に感動します。medimoさんの代表の方たちが医学部生だということにも感動しました。また、こうしたツールを導入する際、サポート体制がとても大事だと思っています。medimoさんの場合は、導入後に専任の担当の方が付いてすぐ対応していただけるので、機械に慣れていない方でも導入しやすいかなと思います。

より質の高い医療を目指して

従来は、必要最小限の情報を残すのに手一杯だったのですが、medimoを導入したことで、これまで記載できなかった患者さんとの詳細なやりとりまで残せるようになりました。分量だけでなく、質においても変化が見られ、20点だったカルテが100点になった、それぐらいのインパクトを感じます。情報が多く残るため、別の医師や看護師、検査担当者が前回の流れを把握することができるので、再診でのやり取りが非常にスムーズになりました。



健都はやクリニック
林史郎院長